

今月の
ピックアップ

渡利英道先生(婦人科腫瘍グループ代表者)にご寄稿いただきました

2026年4月1日付で佐藤豊実先生からバトンを引き継ぎ、JCOG婦人科腫瘍グループ代表者を拝命しました、北海道大学の渡利英道と申します。

グループ内での合意並びにJCOG運営委員会でのご承認を賜り、婦人科腫瘍グループの第6代の代表者を務めさせていただくことになりましたことは、大変光栄であると同時にその重責に身が引き締まる思いであります。

さて、婦人科腫瘍グループの歴史を振り返りますと、1995年6月から1998年11月まで恒松隆一郎先生が初代代表者を務められました。1998年12月より2005年3月まで吉川裕之先生が第2代の代表者を務められました。

その後、2005年4月より2014年3月まで嘉村敏治先生が第3代の代表者を務められました。北海道大学は2005年6月より婦人科腫瘍グループに参画させていただき、当時私は施設コーディネーターの役割を担わせていただきました。今回挨拶文を執筆するにあたり、北海道大学がJCOGに参加して20年以上経過していることがわかり、月日が経過するのはとても早いものだと感じた次第です。

嘉村代表の時代に現在主任研究者として取り組んでおります、JCOG1412に関する議論が開始されましたが、なかなか迅速に進めることができませんでした。

そのような中で、嘉村先生並びに続く第4代代表者の八重樫伸生先生(2014年4月～2022年3月)にお引き立ていただき粘り強く議論を進めた結果、2016年12月より試験を開始することができ、さらにはAMEDからのサポートもいただけることになりました。試験を開始できたことはもちろん大きな喜びでしたが、当初は症例登録が思うように進まず、ストレスの多い日々を過ごしました。その中で工夫としては、当時先行して登録が進んでいたJCOG1203の主任研究者の佐藤豊実先生(第5代代表者、2022年4月～2026年3月)に倣って症例登録があるたびに速報で全研究者宛にその旨をアナウンスすることでした。



婦人科腫瘍グループ代表者
渡利英道

これによって、参加施設の先生方に常にJCOG1412を忘れずにいただくことができ、少しは症例登録の促進に繋がったのではないかと思います。登録は決して順調とは言えなかったのですが、何とか試験中止とはならず2022年11月に561例の登録を完了しました。実に試験開始から丸6年が経過しており、登録を完遂することは開始するまでよりもさらに大変であることを改めて実感しました。JCOG1412に関しましては、今後様々な研究成果を発信すべく努力していきたいと考えておりますので、引き続きご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、婦人科腫瘍グループは現在、北は北海道から南は沖縄まで全51施設で活動を続けておりますが、JCOG1412の登録終了後は3年以上にわたって介入試験が全く実施されておらず、現在進行中の試験は温泉川真由先生が主任研究者として取り組まれている前向き観察研究であるJCOG1913Aのみであります。前向きの介入研究を実施すべく八重樫代表時代に若手の会を立ち上げて幾つかの試験コンセプトについて現在まで議論を続けておりますが、残念ながらなかなか介入試験開始にこぎつけることができていないのが現状です。

そんな状況の中で、JCOG2505(研究代表者:松本光史先生、研究事務局:小松宏彰先生)の開始の目途がついてきたことは久々の朗報であり、遅くとも今年度中に試験が開始できることを期待しております。

さらに、若手の会で議論している試験コンセプトについて実現可能性の高いものから少しでも早く介入試験の開始に繋がられるよう、今後は若手の会に積極的に関わっていきたくと考えておりますが、試験のバリューについては外部からの客観的な評価も重要と考えており、必要に応じて海外の臨床試験グループとのdiscussionなども推進しつつ、試験実施に当たっては、もちろん容易ではありませんが、国際共同試験の枠組みでの実施も視野に入れていきたいと考えております。

JCOG婦人科腫瘍グループ並びに運営事務局の皆様には引き続きのご指導を賜りますと幸いです。何卒宜しくお願いいたします。

JCOG婦人科腫瘍グループ代表者

北海道大学大学院医学研究院産婦人科学教室 渡利英道

JCOG研究の論文公表

◇ **肺がん外科グループJCOG2208A 青景 圭樹先生** [https://www.jtcvsopen.org/article/S2666-2736\(26\)00165-8/fulltext](https://www.jtcvsopen.org/article/S2666-2736(26)00165-8/fulltext)

Artificial intelligence-based algorithm for predicting outcomes in early-stage lung cancer: An annotation-free imaging artificial intelligence study Thoracic Articles in Press101742 March 29, 2026Open access.

◇ **胃がんグループJCOG2212A 和田 剛幸 先生** <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42043495/>

Therapeutic value of para-aortic lymph node dissection in gastric cancer with extensive lymph node metastasis: integrated analysis of three phase II trials (JCOG2212A) Gastric Cancer. 2026 Apr 27. Online ahead of print.

◇ **肺がん外科グループJCOG0802S7 勝又 信哉先生** <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42119729/>

Segmentectomy versus lobectomy in non-small-cell lung cancer with pathologically invasive features: a post-hoc supplementary analysis of a multicenter, Phase 3 trial JCOG0802/WJOG4607L J Thorac Oncol. Online ahead of print.

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!

X ユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://x.com/JCOG_official/

Facebookページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

JCOG皮膚腫瘍グループの新しい試験である、JCOG2410「原発性外陰部乳房外パジェット病の多発リンパ節転移に対する術後放射線治療の有効性を検証するランダム化比較試験 (PREP-RT)」が間もなく開始されます。

本試験の立案・作成にあたり、JCOG皮膚腫瘍グループの先生方、JCOGデータセンター/運営事務局、各審査委員会をはじめとする多くの皆様より多大なるご指導・ご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

原発性乳房外パジェット病 (Extramammary Paget's disease: EMPD) は世界的にも非常に希少ながん種ですが、白人 (人口10万人当たり0.13人/年) に比べるとアジア圏 (0.28人/年) ではやや発生が多いとされており、これまでアジア圏からいくつかのエビデンスの創出が行われている疾患です。今回、私たちはこのEMPDを対象として、世界で初めてのランダム化比較試験を計画立案しJCOG皮膚腫瘍グループ丸となってエビデンスの創出にまい進したいと考えております。

EMPDは原発巣にとどまっている状態であれば、拡大切除により予後が良好ですが、2個以上のリンパ行性転移をきたした場合、予後が非常に不良となることが知られています。本試験では、その予後不良となる「複数個のリンパ行性転移をきたしたEMPD」に対して、従来の標準治療である経過観察と、試験治療である術後放射線治療を比較し、無再発生存期間において試験治療が優れていることを検証することを目的としています。

試験治療は経過観察と比べて、放射線治療による合併症の出現や、治療費、また通院に伴う負担が増える可能性はありますが、それ以上に無再発生存期間が延長されることによる患者さんのメリットは大きいと考えています。

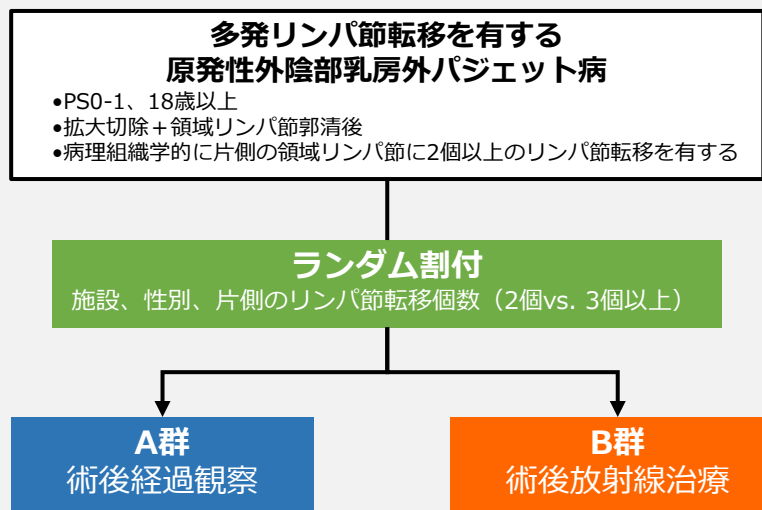
本試験は104人の患者さんにご協力を頂き、進める予定です。試験の完遂・成功には、参加施設の関係者のみなさまのご協力が必要不可欠となります。JCOG2410試験へのご理解とご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



研究代表者/研究事務局
緒方大



放射線治療研究事務局
大熊 加恵



JCOG2410研究代表者/研究事務局

宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 皮膚科学分野 緒方 大

JCOG2410放射線治療研究事務局

国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 大熊 加恵

募集中

サイエンス部門で臨床研究について学んでみませんか？

国立がん研究センター中央病院ではJCOG運営事務局サイエンス部門のメンバーとして、臨床試験のイロハを学ぶことができる「臨床研究支援部門」レジデントプログラムを用意しています。

<研修の特色>

- がんの多施設共同臨床試験グループとして日本最大のJCOGの運営事務局サイエンス部門で、臨床研究の方法論を学ぶことができる
- 生物統計家と共に臨床試験を担当し、生物統計学的方法論を学べる
- 臨床研究を通じて、日本のトップレベルの研究者とコネクション構築が可能
- 医師主導治験や国際共同試験、先進医療B試験など、さまざまな規制要件で実施する臨床試験の知識を得ることができる
- JCOG研究のデータを活用した研究が可能 (学位取得者も複数輩出)
- 担当した臨床試験のプロトコル論文の執筆の機会あり



2026/6/2 ASCOにて

ご興味のある方は下記までご連絡ください。JCOGの16研究グループからの若手研究者の推薦も大歓迎です！

<連絡先> JCOG運営事務局 JCOG_SC@ml.jcog.jp

<国立がん研究センター中央病院レジデント募集情報>

2027年度 募集要項は下記ページに掲載予定です。

https://www.ncc.go.jp/jp/cepcd/recruit/resident_index.html



担当医別月間登録数

- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
石川周成先生/杏林大学医学部
吉田博徳先生/京都大学医学部附属病院
 - ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:4)
鈴木潤先生/山形大学医学部
 - ◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)
松田諭先生/慶應義塾大学病院
山吹匠先生/手稲溪仁会病院
 - ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)
石原優子先生/がん研究会有明病院
宮崎香奈先生/三重大学医学部
 - ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:3)
柳澤公紀先生/関西労災病院
 - ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:2)
長井和之先生/京都大学医学部附属病院
杉本元一先生/国立がん研究センター東病院
 - ◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)
阿部清一郎先生/国立がん研究センター中央病院
- (担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	3月	4月	5月	合計
肺がん外科	62	60	57	179
食道がん	25	26	15	66
肝胆膵	23	23	18	64
大腸がん	24	16	22	62
リンパ腫	17	23	18	58
胃がん	32	8	11	51
乳がん	12	16	12	40
肺がん内科	10	9	9	28
消化器内視鏡	14	7	5	26
脳腫瘍	9	5	7	21
放射線治療	8	9	3	20
泌尿器科腫瘍	8	5	4	17
骨軟部腫瘍	5	1	7	13
頭頸部がん	5	0	3	8
皮膚腫瘍	2	1	1	4
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	256	209	192	657



プロトコル改訂スケジュール
FAQページをご利用ください

臨床研究法対応試験の改訂スケジュール表を掲載
しています

[法対応試験年間改訂スケジュール\(研究者専用サイ
ト\)](#)

JCOG研究の実施手続きについては、JCOGウェブ
サイトの[FAQページ](#)に掲載しています。

- ◆ [各種登録情報の変更について](#)
- ◆ [試験開始準備編](#)
- ◆ [試験開始～終了編](#)
- ◆ [臨床研究法・CRB手続き](#)
- ◆ [生命医学指針・一括IRB手続き](#)

国立がん研究センター FUTUREプロジェクト

「満たされない患者ニーズを解決するための内科系研究プロジェクト」
皆さまからのあたたかいご支援が、多くの患者さんの「FUTURE(未来)」につながります。

https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/future_project/index.html



Japan Clinical Oncology Group

JCOGデータセンターより

● 2026年5月の登録は192例でした

